

電源 ON/OFF

>>電源OFF時には最終のセッティングがオートセーブされます。

メモ：オフセットヌリング値は電源OFF時にクリアされます。
ONT CWモードもOFFになります。

電源ON

>>電源ボタンを押すと数秒間EXFOのロゴがディスプレイに表示されます。
その後、最終使用時のセッティングの状態にて測定画面が立ち上がります。

電源OFF

>>電源ボタンを長押し。最終のセッティングがオートセーブされます。

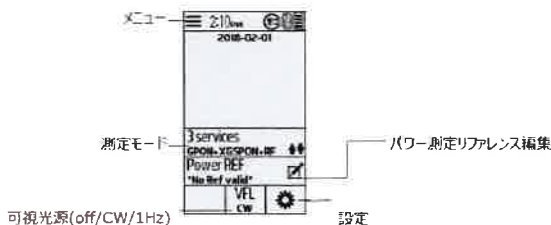
物理的インターフェイス



メニュー

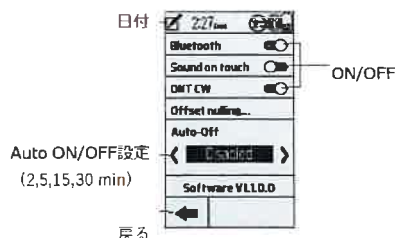
>>電源ON時には以下の画面が表示されます。

- ・メニュー
- ・測定モード (Configuration list)
- ・VFL可視光源 (off/CW/1Hz)
- ・設定
- ・パワー測定リファレンス編集



パラメータ設定

>>本体のパラメータの確認と編集を行います。
メニュー画面の設定アイコンをタップ

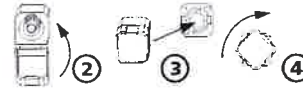


コネクタアダプタ (EUI)

>>ONT/OLTポートに接続されておりEXFO社コネクタアダプタにはPC用,APC用で2種類ラインナップがあります。
緑色→APC /メタル or 黒→PC

EUIアダプタ接続手順

- 1.ホルダの上蓋が正常に開け閉めできることを確認
- 2.上蓋を閉じる
- 3.ベースプレートにコネクタアダプタを装着する
- 4.コネクタアダプタを時計回りに回しベースプレートにロックする



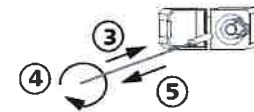
コネクタアダプタ (EUI) 清掃方法

EUIコネクタアダプタ清掃手順

- 1.EUIコネクタアダプタを軽く押し込み反時計回りに回し、引き抜く



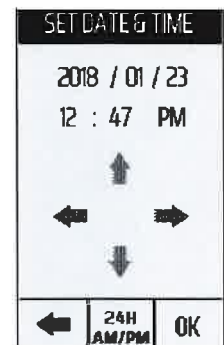
- 2.2.5mmコネクタ清掃用綿棒にアセトン,IPA等の溶剤を一滴垂らす
- 3.綿棒をEUIアダプタに挿入し時計回りにゆっくり回し清掃する



- 4.乾燥した綿棒で上記工程3を繰り返す
- 5.機器側のフェルールを乾いた光学用綿棒で清掃する
- 6.EUIコネクタアダプタを装着する

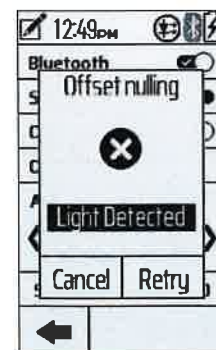
日付・時間設定

1. パラメータ設定画面 左上、設定アイコンをタップ
2. 左・右の矢印をタップし、編集したい項目を選択する
3. 上・下の矢印をタップし、日付と時間を編集する
4. 24H AM/PMをタップし表示方法を選択
5. OKをタップし変更を完了させる




オフセット・ヌリング

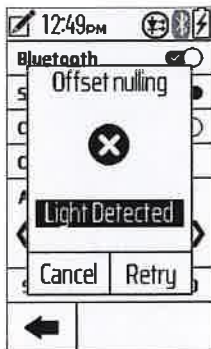
>>高温、高温など、通常と異なる環境下でご使用の際や、極微弱な光を測定する際には、使用前にオフセットヌリングを行います。
メニュー画面の設定アイコンをタップし、“Offset nulling”を選択します。











* オフセットヌリング値は電源OFF時で出荷前デフォルト値にクリアされます。

オフセット・ヌリング 設定方法

1. メニューからを選択しタップ
2. "Offset nulling"を選択し、タップ
3. コネクタアダプタ(EUI)の上蓋を閉じ、OKをタップ
光が遮断されている場合、チェックマークが表示される
4. OKをタップし、作業完了



測定状態 表示アイコン

アクティブレイヤー(active Layer)		非アクティブレイヤー(Inactive Layer)	
ボタン	詳細	ボタン	詳細
	測定完了(閾値設定なし時)		測定完了(非アクティブ上り)
	測定なし		
	合格(Pass)		合格(Pass)
	不合格(Fail)		不合格(Fail)
	ロックバースト検出時		

レイヤー表示例



- a. マルチレイヤー PONの測定下りの全波長を受光上りはGPONの1波長のみであるため、XGS-PONはInactive表示

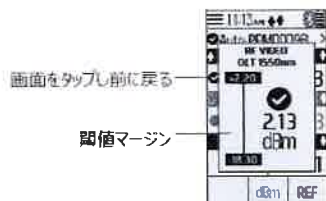
FTTxモードを用いた測定

ONTでの回線測定とONT/ドロップターミナル/HUB/COでのPONトラブルシューティング。最大3波長同時測定が可能です。

閾値の確認 (Threshold View)



閾値を確認したい項目をタップ



画面をタップし前に戻る


閾値マージン

* 閾値 (Threshold)の編集はEXFO社データ編集ソフト "Fastreporter3"を使用した場合、可能となります。

測定モード

- ◆ デフォルトで測定モード(Configuration list)にテスト構成がセットされています。
- ◆ PONレイヤー種別毎に合否判定用、閾値が設定されています。この値はユーザ任意の値に編集可能です。(注:FastReporter3使用時)
- ◆ その他、測定モード表示パラメータ
 - >>場所(Location) : ONT/OLT
 - >>測定タイプ : dB/dBm
 - >>方向(Direction) : US/DS

測定モード(Configuration list)の選択方法

1. メニューから測定モードをタップし、"Configuration list"を表示
2. 1ページ目に表示されない場合、画面を左にスワイプ
3. 希望の測定モードを選び、OKをタップ
4. をタップし、メニュー画面に戻る

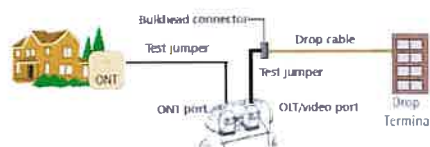
測定解説

ユニットの電源をONにすると、最後に使用した測定モードが自動的に立ち上がります。測定モードを変更する場合、メニューから任意の測定モードを選択して下さい。

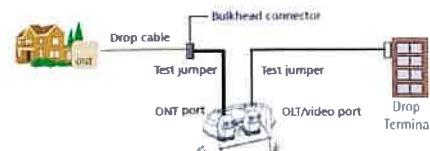
- ◆ 合否判定は測定モード毎の閾値を基に、ディスプレイ上のPass/Fail表示とLEDランプ(Green or Red)で行います。
- ◆ 測定モードに閾値が設定されていない場合、出力の表示のみを行います。(LEDランプはoff)

ONT側の測定はバースト測定が設定されています。CWモードに切り替える場合は、設定-ONT CWのモードをONにします。

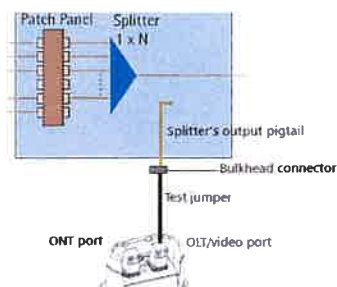
ユーザ宅での測定



ドロップターミナルでの測定



ファイバ分配ハブでの測定



測定手順

1. ファイバ端面が清掃されていることを確認する
2. 上図の通りユニットを接続
3. ユニットの電源をON
4. 測定モードを選択
5. 測定開始

* F1 (CO-スプリッタ間)測定は下り光(downstream)のみになります

リファレンス

COやその他の発振拠点での光出力レベルを基準(リファレンス)とし、各接続点での下り光(downstream)ロス値の測定が可能です。

リファレンス編集

1. "Power REF"をタップ
2. リファレンスの値を任意の値に変更

dB(Loss)モード * 下り光(downstream)専用

1. メニューから測定モード(Configuration list)を選択
2. "REF"をタップし、リファレンスを設定
3. "TAKE REF"をタップ
4. 測定画面に戻り、dB表示されていることを確認
dBをタップ、dBm - dBを変更可能

テストデータのマネジメント

3500のテストデータを本体にセーブ可能。

- ◆スマートフォンアプリと本体が連動 (Bluetooth接続時)
EXFO OPMアプリをインストール下さい。

OPM

EXFO

- ◆データ容量がMAXになった場合、10%以上の容量を空けて下さい。
10%以上の空きをつくらない場合、削除したIDを新たに使用することはできません。